

市政に対する

一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。12月定例会では、12月10日・11日の本会議で17人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、6ページまで続きます)。

公共施設の建設に当たり事前事業評価を実施しないか

かわせみ 笠間 善晴

問 公共施設の多くは築40年以上が経過し、維持管理や更新に多額の費用が見込まれる。インフラ整備も含め、公共施設の再配置や統合など、全ての事業においてこれまで以上の精査が必要である。建設予定の(仮称)保健福祉センターは、パブリックコメントの意見を基本計画に反映させ

ていくとのことだが、施設の構造などですでに決定している。これまでの施設建設においても、完成後間もなく追加施工した案件を指摘してきたが、施工前のさらなる精査で防ぐことができるかと考える。民間団体や公募による公共事業評価検討委員会を設け、事前事業評価を行わないか。

答 (仮称)保健福祉センター建設事業は、平成17年度から便の運行の可否を確認したところ、今後の需要の変化を注視したいとしながらも、現時点では困難であるとの回答であった。市長後、さがみ野間の運行費を試算したが、一便当たり年間約200万円掛かることが分かった。早朝、深夜ともなれば、2倍の費用が掛かることや、路線も複数あることから補助は困難であると考えている。また、4号車は、平成28年度中の乗り入れを指し、藤沢市と協議を進めているが、バス事業者との調整は、一部難航している。(ほかに「介護保険事業について」を質問)



11月16日、「農商工連携あやせ産業まつり～商工フェア・農業収穫祭～」が開催され、綾瀬産の食材で調理された豚すきが無料で配布されました<文化会館駐車場にて>

重要な交通手段であるバス路線の利便性を考えないか

武藤 俊宏

問 本市には、鉄道駅がないため、市の中心部から各駅にアクセスしている路線バスが重要な交通手段となっている。しかし、始発、終発便とも、初電、終電に接続していないため、早朝、深夜は自家用車での送迎など、他の交通手段に頼らざるを得ない状況である。バス事業者の単独運行で

は採算が合わないことは理解するが、定住促進や働く世代の交通手段として必要な早朝深夜便の運行を実現させるため、補助金を交付しないか。また、コミュニティバス4号車は、長後駅への乗り入れを検討しているとの話があったが、進捗状況はどうか。

答 路線バスは、事業者が必要予測や利便性を考慮し、時刻設定している。早朝深夜

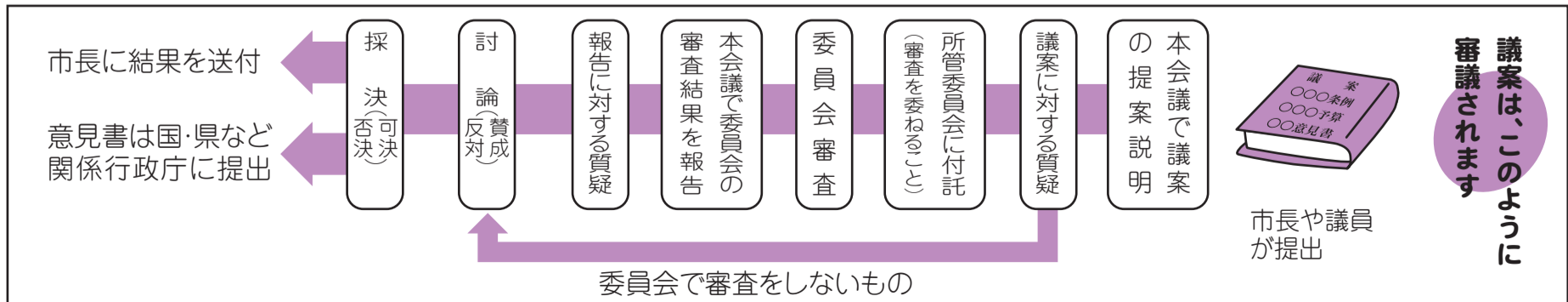
休日歯科診療所移設は合理性のない税金の使い道では

改革フォーラム 安藤多恵子

問 厳しい財政状況の中、税金の使い道が合理的に説明できない事業は廃止すべきである。休日歯科診療所は、外部評価委員会の委員全員が廃止と決定したにもかかわらず、新設予定の(仮称)保健福祉センターに移設されることになっている。移設に掛かる初期投資と年間の維持費の見込み

は。また、市内には代替機能となり得る民間歯科診療所があると思うが、何箇所あり、輪番で対応することが可能かどうか協議したことはあるのか。移設を前提とせず、休日歯科診療所は廃止し、新たな体制をつくるべきではないか。

答 移設に掛かる初期投資は約1750万円、維持費は年間約1050万円を予定している。日曜または祝日に診療を行う民間歯科診療所は6カ所あるが、年末年始などに診療を行う診療所は1カ所のみである。民間歯科診療所は、臨時休診などもあることから輪番制は難しく、現時点では休日歯科診療所の役割を全て補える状況ではないと考え、一次救急医療体制確保の観点から公設で運営する必要があると判断した。今後、民間歯科診療所が充実し、一次救急医療の役割を担うことができれば、公設を見直す考えもある。(ほかに「シティセールスを一層進めるために」「あやせいきいき体操をもっと効果的に」を行ってはどうか」を質問)



議案は、このように審議されます

市長や議員が提出

委員会で審査をしないもの